



## ごあいさつ

平素は飯田信用金庫をご愛顧賜り、誠にありがとうございます。心よりお礼申し上げます。

みなさまがたに当金庫の業績をより良くご理解いただくため、今年もディスクロージャー誌「HOTLINE(ホットライン)2021」を作成いたしました。本冊子をご高覧いただき、私どもの現在の姿をご賢察いただければ幸いです。

令和3年 7月

理事長 **小池 貞志**

### ■ 金融経済環境

令和2年度の日本経済は、新型コロナウイルス感染症の世界的流行により未曾有の危機にさらされました。政府による各種経済対策の効果もあり、一部では持ち直しの動きも見られておりますが、経済の水準はコロナ前を下回った状態にとどまっております。回復の足取りは緩慢になる見通しです。また、金融機関を取り巻く環境は、マイナス金利政策の継続により今後も利息収入の減少が予想されるなど、依然として厳しい状況にあります。

一方、当地域の経済情勢につきましては、リニア中央新幹線開業に向けた工事の本格化や、三遠南信自動車道の工事の進展もあり、今後の発展に対する期待感が高まっておりますが、やはり新型コロナウイルス感染症の影響は大きく、見通しは極めて不透明であると言わざるを得ません。

### ■ 令和2年度の取り組み

令和2年度は、第8次中期経営計画「架け橋2028 First Stage～改革へのチャレンジ～」の2年目として、「信用金庫らしさに磨きをかける」を経営計画のテーマに掲げ、「業務改革」で創出した資源をより付加価値の高い業務へ新たに投入することを最重点目標として様々な施策に取り組みました。前年度に引き続き業務改革に注力し、業務の見直しと業務プロセスの改善、本部の組織変更、営業店のグループ化などに取り組みながら、コロナ禍に苦しみお客様の資金繰り支援に迅速かつ柔軟に対応するなど、信用金庫らしさを十分に発揮した1年となりました。

令和2年度は主要な財務目標として、①預金平均残高60億円増加、②貸出金平均残高20億円増加、③当期純利益14億円を掲げ取り組みました。預金は堅調に推移し、貸出金もコロナ禍のお客様支援に真摯に取り組んだ結果、ともに増加目標を上回ることが出来ました。また収益環境は引き続き厳しい環境下ではありましたが、コア業務純益は7年ぶりに増益に転じ、当期純利益目標を達成することが出来ました。

### ■ 令和2年度の業績および決算概況

預金の期末残高は、前期末比329億10百万円、5.98%増加し5,824億6百万円となりました。政府の支援による定額給付金や各種助成金の入金等により法人預金、個人預金ともに大幅に増加しました。

貸出金の期末残高は、前期末比56億95百万円、2.26%増加し2,576億6百万円となりました。コロナ対策資金への柔軟な対応により法人向け貸出金が大きく増加するとともに、住宅ローンを中心に個人向け貸出金も堅調に推移しました。

有価証券運用では、国債、事業債、投資信託などの購入により残高を積み上げたことに加え、時価が上昇したこと、期末残高は前期末比153億14百万円増加し3,144億18百万円となりました。また、株価が大幅上昇したこと、有価証券の評価益は前期末比109億89百万円増加し328億75百万円となりました。

収益の面では、利回り低下の影響により貸出金利息収入が減少した一方、有価証券利息収入の増加と経費の減少によりコア業務純益は増益となりましたが、貸倒引当金が前期の戻入から繰入に転じたことなどから、業務純益は前期比3億8百万円減少の20億4百万円、経常利益は前期比5億19百万円減少の19億50百万円、当期純利益は前期比2億54百万円減少の17億64百万円となりました。

### ■ 展望と課題

令和3年度は第8次中期経営計画の最終年度として、引き続き経営計画のテーマに「信用金庫らしさに磨きをかける」を掲げ、コロナ禍の影響を大きく受けているお客様、特に資金繰りの不安を解消できない事業者や将来の事業継続・承継に悩んでいる事業者を強力に支援するため、「信用金庫ならではの支援力を発揮する」を最重点目標として定め、お客様支援に注力して取り組みます。

地域のみなさまには、今後とも一層のご支援を賜りますようお願い申し上げます。ごあいさつとさせていただきます。